

3 当院における心臓カテーテル検査後の透析について

渡邊 資夫・青柳 竜治

立川総合病院腎臓内科

心血管系疾患の評価、治療にひろく行われている心臓カテーテル検査は、腎機能の廃絶した透析症例においては、造影剤除去を目的として検査直後に血液透析が行われることが多い。しかしその是非については見解が一定していない。今回我々は、心臓カテーテル検査を行った透析症例の合併症について検討を行った。対象は当院で2003年1月から2005年8月にかけて心臓カテーテル検査を行った透析症例48名(男性32名,女性16名,年齢 70.5 ± 11.3 歳,透析歴 12.6 ± 8.8 年,件数54件)である。心臓カテーテル検査直後に透析を行った群(透析日群)と、翌日に透析を行った群(非透析日群)について合併症の頻度とその内容を検討した。心臓カテーテル検査に伴う合併症は54件中7件に認められた。血圧低下による透析の

中止が4件,シース挿入部の血腫形成が2件,発作性心房細動が1件であった。合併症は主に透析日群に認められ,造影剤の使用量が多い傾向にあった。非透析日群で,造影剤による副作用(心不全,頭痛,血圧上昇,低下)は認められなかった。造影剤による著しい浸透圧の上昇は認められなかった。透析症例において心臓カテーテル検査直後の透析は,必ずしも必須ではなく,合併症のリスクを最小限にする意味でむしろ心臓カテーテル検査の翌日に行うのが望ましいのではないかと考えられた。

特別講演

「急性血液浄化法の限界と将来展望」

あかね会土谷総合病院副院長

川西 秀樹